

### №.53 令和3年3月17日 発行 多治見市教育研究所

URL: http://school.city.taijmi.lg.jp/kyoiku/本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上でもご覧いただけます。

# 巻頭言

# GIGA スクール構想がスタートするにあたって

いよいよ来年度から、GIGAスクール構想 が本格スタートします。国・多治見市が大きな予 算をかけ、大変なスピードで整備が進んでいま す。教員はこのような急激な変化に、革新的な面 と保守的な面があります。

あえてマイナスイメージを書くと

- ●機器に振り回されて、教える中身が弱くならないか。
- ●得意ならいいが、苦手な者は扱いに時間ば かりかかる。

当然の思いです。私たちの本質は、「子どもに力を付けること。」公教育に携わっていますので、堅くいえば「学習指導要領の内容をいかに身に付けさせるか。」にあります。私たちはていねいな指導と、見届けによって、これを実現しようとしてきました。機器を使いこなす能力は別にして、極論を言えば、子どもたちに力を付けさせることができればICTは必要ないと言えるかもしれません。

- ・授業の中で、分からず困っている子に寄り添 い指導する。
- ・宿題をていねいに見届ける。
- ・個に合った教材を作る。

教師一人一人の創意と工夫によって、授業を作り上げてきたのです。しかし、教師がこのような努力をしても、全ての子どもに力を付けきることができない。限られた時間の中で、「どの子もできるようにした。」と言い切れないもどかしさを誰も感じたことがあるでしょう。

本題に戻ります。

GIGAスクール構想とはどういうものでしょう。この先、子どもたちが生きていく社会は、 ICTやIOTを使いこなすことが必要。だから、学校で教え適切に使いこなせるようにする のでしょうか。

G I GAスクール構想の目的が書かれている 文章がありました。 多治見市小中学校長会 会長 多治見市立養正小学校 校長 中川 和人

1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する(文部科学省HPより)

堅苦しい文章ですが、私は「誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、・・・」という部分に目を引かれました。授業中に「ヒントカード」を用意したり、理解に時間のかかる子への手立てを工夫したりしている私たちの授業と同じ方向だと考えました。機器を利用することで、一人一人のつまずきや逆にどんどん発展的に進む子への対応が同時にできるとしたら、よい道具・教具になり得るものでしょう。

しかし、まだまだGIGAスクール構想は発展途上です。岐阜県教委は GifuWeb ラーニングを整備しています。算数の練習問題を行い、間違っていると、ヒントや考え方を示してくれます。私は一つの問題を間違え続けてみました。ヒントや説明の後も間違った答えを入力し続けてみました。最後に示された文は、「近くにいる先生を呼んで相談しましょう。」でした。私は、この文を見て安心しました。ICTは万能ではなく、教師の役割は大きいのです。

「誰一人取り残すことなく・・・」は、まだまだ理想の世界です。しかし、子どもたちに力を付けることができる有効な道具となり得るのなら、使う価値はある。使いながら理想の姿を目指して改善していくことも、これからの教師の仕事なのかもしれません。

養正小では3月の職員会は、真新しい教師用iPadを手に、ペーパーレスで行いました。 会の終わりに「今日の感想は、『目は疲れるし、 頭に入ってこない。』といったところですか。」と 話すと何人もうなずきました。

子どもに力を付ける。この一点で活用を考え たいものです。

# 令和2年度 多治見市教育実践論文

今年度の教育実践論文には、新人の部11点、一般の部13点、合計24点の応募をいただきました。校種別では、幼稚園1点、小学校11点、中学校12点でした。昨年の3月から3か月にもわたる休校を経て、さらに日々の新型コロナウイルス感染予防対応の中、教育実践に取り組まれ、その成果を論文にまとめられました。子供に軸足を

置き、試行錯誤しながら実践を重ねられた実践 ばかりでした。先が見通せない世の中ではありま すが、それでも、目の前にいる子どもたちのため に、「為すべき事を為す」。今後も多治見市の教 育が一層発展していくことを願い、ともに歩みま しょう。

# ◎最優秀賞(一般の部) <u>滝呂小学校 江﨑紀子 教諭</u>【学級経営】

「安心感」の中で自ら目標をもち学びに向かう子の育成 ~制限ある教育環境で伸ばす非認知能力と「自己有用 感」を育む客観的価値付けを通して~



講評:日々変化するコロナ禍の状況の中でありながら、児童一人一人の「安心感」を基盤に学びへの 姿勢づくりにこだわり続け、「関わり合うことや学びを認め合うこと」を意図的に・継続的に実践 している。その成果が児童の姿となって表出されていることや保護者からの確かな信頼を得て いることが評価できる。

#### ◎最優秀賞(新人の部) 笠原中学校 木下綾野 教諭

【英語】主体的に伝え合う生徒、豊かな表現力の育成を目指して

#### ~ロイロノートの活用、PDCA サイクルを意識した書く活動の工夫~

講評:ICT 機器と従来の「紙ノート」のそれぞれのよさに着目し、その効果を児童の姿に基づき分析している。「中間交流」「フィードバック」等が ICT を活用する際においても有効であることなど、本格的に始動する ICT を活用した授業の在り方について、他の先生に参考となる実践である。

#### ○優秀賞(一般の部)

#### 精華小学校 大蔦康司 教諭

【算数】主体的・対話的に学び、確かな学力を身に付ける子の育成~算数科 学び合い活動を通して~

#### 精華小学校 山田恭平 教諭

【国語】仲間と協働し、「生きる力」を高め合う子の育成~コロナ禍でもできる主体的・対話的で深い学びのある「話すこと・聞くこと」授業の工夫~

#### 昭和小学校 吉田聡美 教諭

【算数】児童が「できる楽しさ」を実感する少人数指導の在り方~主体的な学びを生み出す教具・支援方法の工夫と根拠を明確にさせる発問を通して~

#### 笠原中学校 太田鎮幸 教諭

【理科】科学的な思考力・判断力・表現力を自ら 育成する生徒の育成~自己理解を促す自己評 価によってつながる一連の学習活動を通して~

#### ○優秀賞(新人の部)

#### 小泉小学校 井戸亜寿紗 教諭

【算数】主体的・対話的に学び、確かな学力を身に付ける子の育成~算数科 学び合い活動を通して~

### 多治見中学校 滝沢悠一郎 教諭

【理科】対話的に学ぶ生徒の育成〜自分の考えを発信し、深めていくことで科学的に探究する生徒の育成〜

#### 小泉中学校 鈴木香子 教諭

【理科】すべての生徒が自信をもって学び続ける授 業づくり~仲間との関わり合いを大切にして~

#### 小泉中学校 松口真芳 教諭

【保健体育】すべての生徒が運動の楽しさを理解することができ、上達を感じられる授業 ~バレーボール 三段攻撃の必然性~

#### 養正幼稚園 清水沙織 教諭

【特別支援】子どもの特性を踏まえた多面的な指導の在り方~自分に自信をもって、自己発揮して過ごすために~

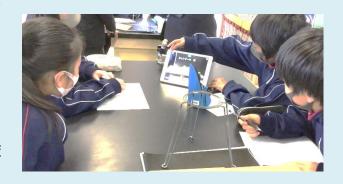
# 多治見市における「GIGAスクール構想」

いよいよ、令和3年度から、一人一台の iPad が児童生徒に貸与されます。多治見市では、GIGA スクール構想を受け、次のように「目指す子どもの姿」を設定しました。

## 「ICT 機器を活用し、情報活用能力を高め、学びを深める子ども」

整備された教育 ICT 環境を活用することにより、以下のことが可能になります。

- ・子どもたちの情報活用能力の育成
- ・ICT を効果的に活用した分かりやすく 深まる授業の実現
- ・教職員が ICT を活用した情報共有によりきめ細やかな指導を行うことや、校務の負担軽減 など



子どもたちが情報活用能力を発揮することで、各教科等における主体的・対話的で深い学びへと つながっていくことが、一層期待されます。

#### ○活用目標について

iPad が貸与されても、いきなり使いこなすことは難しいと思います。まずは「ステップゼロ」で、ICT の活用に少しずつ慣れていけるようにします。

令和3年度

前期 「ステップゼロ」※右図参照子どもも教師も「まず使ってみる」

後期

1日1時間は授業で活用

#### OTTnet(Tajimi Teacher's network)について

「TTnet」とは、教材等のデータ共有フォルダです。 各先生が作成された教材データ(授業用学習プリント、資料など)を集めて、多治見市内の先生が教材研究の際、必要に応じて使うことができるようにしています。授業改善の一助として期待できます。

先生方が作成された教材データを TTnet に保存し、積極的な活用をお願いします。

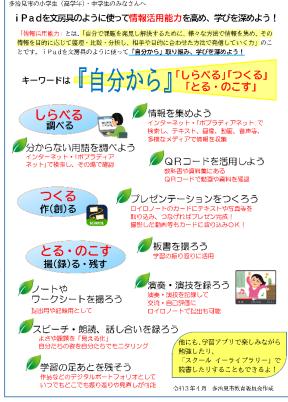


図:ステップ0「しらべる」「つくる」「とる・のこす」

# 10月、11月、12月 土曜学習「わがまち 多治見大好き講座」

10月、11月、12月の土曜学習は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、引き続き、例年の半分ほどに規模を縮小して実施しました。

10月は、「多治見探訪 下街道なぞときツアー」を開催。多治見観光ボランティアガイドの方々の案内で、下街道付近を2時間ほどかけて歩きました。多治見国長邸跡、西浦記念館、桝形道路、屋根神様、虎渓道標、大日如来・・・、参加者は、多治見のまちに残る「昔」をたくさん見つけることができました。



今も残る屋根神様

11月は、今年も多治見ロータリークラブの方々と、「多治見ふるさとしごと塾」を開催しました。参加者は、陶芸家、新聞販売、鉄工所、電力会社など、16の職業の中から希望する「しごと」2種類について、その仕事の一部を体験したり、話を聞いたりしました。講師は、今年も多治見ロータリークラブの会員の方々にお願いし、多治見で活躍しておられる方々から直接教えていただく貴重な機会となりました。

12月は「タイル博士になろう 2020」をモザイクタイル生産量日本一のまち笠原で開催しました。カネキ製陶所では、タイルの製造工程を教えていただいた後、社員の方々の案内で工場に入り、タイルが次々と作られる様子を見学しました。笠原中央公民館では、タイル会社のオザワワークスさんに、モザイクタイルを出荷するための「貼り加工」という工程を教えてもらいました。参加者は、作業の様子を実際に見せてもらい、その一部を一人一人体験しました。モザイクタイルミュージアムでは、様々なモザイクタイルを見て回りました。うながっぱバスに乗っての移動も楽しい体験になったようです。



貼り加工に挑戦

残念ながら、最後の2講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止としました。1月は、理科の先生方に来ていただき科学の講座を、2月は、多治見陶磁器上絵加工工業協同組合の方々に来ていただき「多治見絵付け」の勉強をする予定でした。どちらの講座も、講師の先生方にはご準備を進めていただいておりましたので、申し訳なく残念に思っています。



手指の消毒を念入りに

今年度も、中学生ボランティアやサポーターをお願い した退職教員の先生方には、大変お世話になりました。 お手伝いいただいたおかげで、こまめな消毒などきめ 細かな感染防止対策をとることができました。

また、今年は、コロナ禍の中での土曜学習となったに もかかわらず、どの講座にも定員をはるかに超える申し 込みがありました。特に、中学生ボランティアへの申し込 みは例年以上に多く、毎回、その志を頼もしく、ありがた く感じました。保護者からは、「中学生のボランティアの 子が親切にしてくださり、大変喜んで帰ってきました。」 「中学生ボランティアの子が本当によくしてくれて、嬉し かったようです。」という声も届いています。